

第5章

保存活用の基本方針

- 5-1 特別史跡名古屋城跡の目標
- 5-2 基本方針

5-1 特別史跡名古屋城跡の目標

名古屋城は近世城郭築城技術の完成期に築城されたことから、方形とシンプルながらも馬出や枡形を駆使した強固な縄張であり、本丸には延床面積が史上最大を誇る五層五階の大天守や後に近世城郭御殿の最高傑作とされる本丸御殿が築かれた。また、広大な石垣の刻印等からもうかがえるように、諸大名 20 名を動員した公儀普請で築かれた城郭であった。これらから、特別史跡指定説明文で名古屋城跡は近世城郭の代表的なものとされている。また、近代以降は陸軍期、離宮期など管理者が代わるなかでも、各時代に応じた保存がされてきたことにより、現存する遺構から往時の姿を見ることができる歴史的価値の高い城跡である。また、それら遺構だけでなく豊富に残された史資料等によって、近世における改修・改変まで詳細に知ることができるとともに、築城にあたって行われた清須越きよすごしによって現在の名古屋の都市形成のはじまりとなった城郭である。

このように特別史跡名古屋城跡は、代表的な近世城郭の姿を現代に伝える貴重な城跡であり、さまざまな歴史的価値が重層する城跡であることから、特別史跡としての保存と活用により、その価値を確実に継承するとともに魅力を最大限に高め、国内そして世界に誇れる日本一の近世城郭を目指す。

特別史跡名古屋城跡の目標

近世城郭の姿を現代に伝える特別史跡名古屋城跡の
価値の確実な継承と魅力の最大限の向上により、
世界に誇れる日本一の近世城郭を目指す

5-2 基本方針

特別史跡名古屋城跡の目標を実現するために、本計画における基本方針を以下に定める。

名古屋城の歴史的価値を後世へ確実に継承していくため、本計画で定める保存管理方法に従い現存遺構等の適切な保存管理を行うとともに、特別史跡全体の保存管理を厳格に行う。

また、名古屋城の往時の姿や歴史的価値を正確にわかりやすく伝えるため、特別史跡全体や遺構等を積極的に公開し、展示施設等を充実させる。また、企画・イベント等の充実により名古屋城の魅力を高め、名古屋城への関心を高められるような活用方法の検討を行う。

整備については修復整備など保存のための整備と、名古屋城の往時の姿や歴史的価値等を伝えるための整備や観光地としての利便性・安全性を高める整備など活用のための整備がある。いずれの整備においても特別史跡名古屋城跡の本質的価値を構成する遺構等の保存に影響を及ぼさないことを大前提として、これらの整備をバランス良く計画的に進める。

これら特別史跡名古屋城跡の保存・活用の推進を調査研究成果に基づいた適切なものとするため、名古屋城の歴史や構造、現在までの史跡の整備事例等の継続的な調査研究を行う。また、これらの継続的な調査研究により特別史跡名古屋城跡の本質的価値や特徴をより深化させ、往時の名古屋城の姿の理解を深めるとともに後世へ継承していく。

さらに、特別史跡名古屋城跡の保存・活用を推進するにあたり、円滑に進められるよう調査研究体制の強化や管理主体間・庁内関係部署間の横断的な連携体制の強化などが必要である。また、保存・活用の幅を広げるために市民や企業等の多様な主体と協働するとともに、より一層の魅力の向上を図れるよう更なる民間活力の導入など、名古屋城の望ましい運営・体制の構築を目指す。

基本方針	
保存	名古屋城の歴史的価値を後世へ確実に継承していくため、特別史跡全体の保存管理を厳格に行う。
活用	往時の姿と歴史的価値を正確にわかりやすく伝えるとともに、名古屋城の魅力を向上させる。
整備	本質的価値を構成する遺構等の保存に影響を及ぼさないことを大前提とし、保存のための整備・活用のための整備を計画的に行う。
調査研究	調査研究成果に基づいた特別史跡名古屋城跡の適切な保存・活用のため、名古屋城の歴史や構造等の継続的な調査研究を行う。
運営体制	特別史跡名古屋城跡の保存・活用を推進するため、調査研究体制を強化するとともに多様な主体と連携した効率的で効果的な運営・体制の構築を目指す。

